加藤恭子ゼミナール 登竜門企画 二十歳のころ

「じゃ、いつ失敗するの？二十歳でしょ。」

～日本を賢く強くする、今井雅人先生に聞く二十歳の頃～

A 班 鈴木 新堀 布子

<はじめに>

私たちA班は、どのような方にお話しを伺いたいかと話し合ったところ、**営利目的以外にヒトを動かす役割**を担っている方が良いということになりました。そこで、社長の仕事も政治家の活動も行っている今井雅人先生に二十歳の頃のお話を伺いました。また、ゼミナールのテーマである**人的資源管理論**を学ぶうえでこのインタビューで得たことを役に立てたいと考えました。

<経歴>

1962年2月 岐阜県下呂市生まれ

高校を卒業後、一年間の浪人生活を経て、上智大学（文学部英文学科）に入学。

1985年三和銀行入行。

1989年より5年間米国、シカゴ支店で勤務

2004年U F J 銀行資金為替部門

統括次長兼チーフディーラー職を最後に銀行を退職。

その後、金融情報会社を設立、同時に経済アナリストとして、各方面で講演、執筆活動を行う。

2009年12月の第46回衆議院選挙で二期目当選。

財務金融委員会、農林水産委員会を経て、現在は経済産業委員会（理事）、法務委員会、裁判官訴追委員会に所属。

日本維新の会国会議員団：国会対策副委員長、道州経済部会長に就任。

<インタビュー内容>

① 二十歳の頃に何をたくて何をしていたのか

一浪した末、二十歳で大学入学、海外に興味があったため英文科に進むことを決意した。サークル活動は軟式テニスサークルに入ったものの、方向性の相違から幼少から取り組んできた剣道に転向、主将もまかされ、まさに体育会系の大学人生を歩んだ。

② 二十歳の頃に一番苦労したこと

本人は特に苦労したという意識は持っていなかった。部活の仲間にも恵まれ、山場という山場はなかった。東京に出てきた時（19歳）は地元との感覚の違いに戸惑い、更にお金がなかったため大変だった。

③ 二十歳の時に一番大切だったものは何か

剣道部の仲間。

部の主将をしていたため、「兼部をしたいという部員の意見」と「体育会系ならではの厳しい伝統」のどちらを優先すべきかという葛藤があった。結果、部員の兼部を許すという部としてのルールの緩和を選んだが、いまはこれが伝統として成り立っている。要するに先駆者になったわけである。この頃から、マネジメントを無意識のうちか意識した生活を送っていた。

④ 政治家と社長、人を動かすという立場で違うと感じた点

似ている部分と違う部分がある。

その人が**納得**するかしないかでパフォーマンスの善し悪しが変わる。また、個人が納得をしたうえで自立をしない限り組織としての前進は期待できない。先生はあくまでも政治家および社長は、そのための環境作りを手掛ける存在にすぎないと考えている。ただし、国民を相手にした場合は全員が納得する政策を打ち出すのは不可能に近い。民主主義の考えから多数決の意見で決定してしまう場合が多いが、やはりこの場合もより多くの人が関心を持ち納得することが必要不可欠であるのは明白である。

⑤ 二十歳の頃、すでに政治家になりたかったのか

二十歳の頃に政治家になりたいという具体的な目標があったかといえばそうではなかったようだが、幼少から父親に政治の話聞き、番組を見ていた影響か関心はあった。政治家になる以前に為替ディーラーを経験しており、バブル崩壊後の日本の株価の下落を目の当たりにしたのが政治家になるきっかけの大きな要因になったようだ。

⑥ 二十歳のころをむかえる私たちにアドバイス

とにかく**色々なことに興味を持ち**、その中でビビっときたモノがあったらすぐ行動に移すことが大切。そうすることで、たくさんの人と接することができ、結果自分の成長へと繋がる。また、本を読むことも人間としての成長に通ずるものであるが、先生曰く、体温を持っていない本には限界があり、直接会って話すことに勝るものはない。挑戦する際、失敗を恐れて動けなくなってしまうというのは誰にでもあることだけど、若い頃に失敗をしておいた方が傷は浅くすむため、今の私達は挑戦するのに最もいいタイミングなのかも

しれない。

更に一つの**趣味を極める**ことも大切。長年継続している趣味がある人はそれが自分の中の見えない軸となり、ぶれないモノになっていく。

<インタビューを終えて得たこと>

二十歳の頃に焦点を置いて話をききだすのは思ったより難題でした。一番聞きたかった質問である「政治家と社長、人を動かすという立場で違うと感じた点」という質問に対して意外な答えが返ってきて、政治家と社長ではまったく違うと考えていた私たちの考えを根本的に変えてくれました。

<おわりに>

衆議院議員第一会館へ出向いたとき、警備員の多さに圧倒されました。

このような方にインタビューができる経験は滅多にないと思いました。この経験を活かし今後の学生生活をより充実したものにします。協力していただいた秘書の斎藤さん、お話をしてくださいました今井先生、本当にありがとうございます。

<参考文献>

今井雅人公式サイト「今井雅人が行く！」/プロフィール/今井まさと経歴
(<http://www.imai-masato.com/2012web/profile.html>)、2013年2月17日取得